

Ⅲ. 管理運営状況について

教員の働き方改革による宿泊型利用の中止や、少子化による1団体あたりの人数の減少、自治体の方針変更等により、「令和」に入り機構全体の利用者は減少し、当所を含めた機構の事業収入は落ち込むこととなりました。

国から措置される「運営費交付金」は毎年削減されているため、財源の確保として自己収入の比重を高めることが急務となっています。

そこで令和6年度からの施設使用料の改定及び施設規模の適正化（宿泊定員の見直しや、使用頻度の低い宿泊棟の受入休止）の継続とともに、令和7年度から活動場所への使用料の設定を行い、財政の健全化を進めました。

令和6年度の施設使用料の改定・令和7年度の活動場所の使用料設定と、2年連続の値上げとなってしまい、利用者への負担増加が続きました。

「ただ値上げされただけ」と不満を感じられることがないように、これらの使用料で得た収入と合わせて、支出の削減、外部資金の獲得を行い、設備・機器・用具の修繕や更新を行い、利用者の方々へ「安全・安心な環境」「充実した研修設備」の提供という形で還元できるよう努めました。

(1) 支出削減に向けた取り組み

○清掃業務の内製化

業務委託を行っていた清掃業務の契約を終了し、清掃業務担当非常勤職員2名の採用を行い、清掃業務を内製化し経費削減に努めました。

業務委託では仕様書で決められた定型的な清掃内容・回数・場所の清掃を行っていましたが、内製化したことで、利用状況等にあわせて柔軟に清掃を行うことができるため、清掃場所の日々の選定、清掃内容・回数の選択と集中が行え、経費の削減だけでなく、環境美化にも大きく寄与できました。

また、令和8年度にはロボット掃除機の導入を予定しており、ロビーや廊下の単純清掃はロボットに任せ、職員は今までマンパワーの問題で手が届かなかった細かい部分の清掃や、時間がかかる研磨清掃等を行い、更なる環境美化を目指します。

(2) 収入増加への取り組み

○民間企業との業務提携

令和5年度から引き続き、(公財)九電みらい財団と「いさはや九電みらいの森」における環境教育に関する委託業務を締結しました。

令和7年度は近隣にある「いさはや九電みらいの森」や自然の家のフィールドを活用し、県内外の子供たちに環境保全意識の啓発を目的とした環境教育や広報活動、指導者研修を実施し、受託料収入を得ることができました。

令和8年度以降も実施する予定から、継続的な収入が見込まれます。



(3) 老朽化設備・用具の更新

○第6水源地深井戸水中ポンプの交換

本施設で使用される水は全て第6水源地の井戸水にて賄われています（第1水源地は機器の故障により休止中、第2～5水源地は沢の表流水等を使用していたため廃止）。

井戸水を汲み上げるポンプは前回の更新から11年が経過し、一般的な耐用年数を超えはじめたためか、令和6年度から軽微な不具合と修理を繰り返していました。

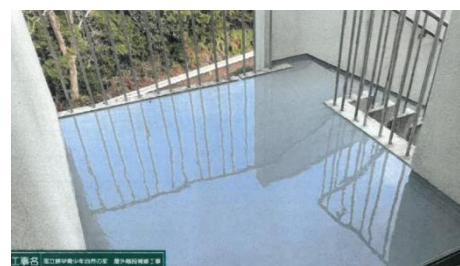
本ポンプの停止は、施設内の飲用水・生活水の供給停止を意味し、施設機能の停止に直結するため、予防保全の観点から水中ポンプの交換を行いました。



○本館宿泊棟外階段の補修

宿泊者の避難経路になっている本館宿泊棟の外階段は、経年劣化で防水機能が低下し、雨水の内部侵食によりコンクリートの爆裂と内部材の流失が発生していました。

このままでは地震等の緊急時に避難経路として使用できない可能性が見込まれたため、補修工事を行いました。

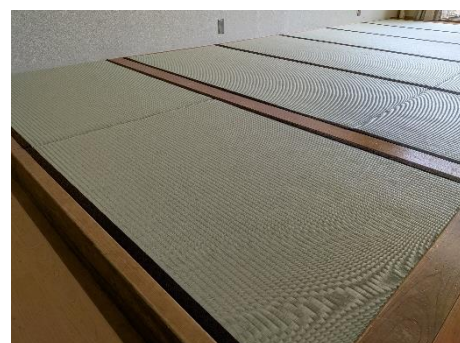


○本館宿泊室の畳表替え

長年使用している宿泊室の畳が劣化し、畳表の擦れ・破れ・汚れが顕著となり、利用者アンケートにて不満の声をいただいております。

従前は使用不可の状態になった畳を、1枚ずつ都度新品へ交換していましたが、新しい畳はカビが吹きやすく、日に焼けて安定するまでこまめに拭き上げる必要がありました。

快適な研修環境・健康上の懸念の払拭・拭き上げ作業の低減を目指し、本館宿泊室の利用頻度の高い部屋の畳をメンテナンスフリーの畳へ表替えを行いました。



○本館宿泊棟の掃除用具の刷新

本施設は教育施設であるため、自立心の向上を目指し、自分が使った部屋は自分で掃除することを基本とし、次に部屋を使う人のことを思いやる「思いやりのリレー」を提唱しています。

しかし、年々宿泊棟の掃除が徹底されなくなり、利用者アンケートでの不満の声が高まっていました。掃除徹底の声かけや張り紙の掲示も行いましたが、功を奏す

ことなく、職員で仕上げ掃除を行っていました。

このままでは本来の教育目的を達成することができないため、どうすれば子ども達が掃除をやりやすく、進んで行えるかを考え、最近の子ども達にとって馴染みのある、ハンディー掃除機を宿泊棟に設置しました。

設置から数ヶ月間効果を検証したところ、子ども達は進んで宿泊棟の掃除を行うようになり、「思いやりのリレー」がこれまで以上につながるようになりました。



○館内掲示の刷新・多言語化

施設内の案内掲示は、開所時に作成された物や職員が手作りした物が混在し、記載情報が古い物や日焼けし読み辛くなった物が散見されていました。

また、記載言語は日本語のみであったため、昨今増加している外国人利用者には不親切な掲示となっていました。

そのため、統一デザインで日本語・英語・中国語・韓国語の併記と、ピクトグラムを使用し、視認性を高めるため可能な限り大きい館内掲示を作成しました。



○I-CAP 用品の更新

本施設の目玉プログラムである I-CAP (諫早コミュニケーションアドベンチャープログラム) の用具に、細かな傷や擦れ、欠けが目立つようになっていました。

また、ここ数年 I-CAP の広報に力を入れた結果、プログラム実施希望団体も増え、用具が足りなくなる場面も出てきたため、劣化した用具の更新と用具数の追加を行いました。

